

学報

美術学部の新専攻特集

メディア映像
専攻開設

デザイン専攻の新カリキュラム

デザイン専攻の再編



美術学部の新専攻特集

メディア映像専攻開設

愛知県立芸術大学は2022年春よりデザイン・工芸科に新専攻「メディア映像専攻」を開設。新専攻設立に伴い、旧デザイン棟を芸術学・メディア映像棟として改装し、新たにメディア映像スタジオ棟も新設。最新の機器を備え、学生の作品制作をサポートします。メディア映像専攻の理念や学び、求められる人物像や養成する力について、メディア映像専攻の森真司准教授に伺いました。（取材・文 小山芳恵）

メディア映像専攻の概要

メディア映像専攻は、映像による表現を主とした新しい研究分野を学ぶ専攻です。各種アニメーション技術による表現を行うアニメーション表現研究、CGなどのデジタル映像による表現を行うCG表現研究、実写による撮影と編集による表現を行う映像表現研究、インタラクティブメディアなどによる表現を行うメディアアート研究、メディア表現を利用したさまざまな企画を行うメディア企画研究、歴史や文化的情報の収集とその展開を行うデジタルアーカイブ研究という6つの分野で展開。これらの基礎的な知識と技術を2年間で習得し、3年生からは各研究領域で独自の作品制作に取り組みます。

専攻の開設に合わせて旧デザイン棟を芸術学メディア映像棟に改装。また近接して新しくメディア映像スタジオ棟を建設しました。映像スタジオや録音室などを備えた施設で、学生たちは自由に作品づくりを行うことができます。定員10名の少人数教育で授業が行われるのもメディア映像専攻の特徴です。各分野におけるプロフェッショナルな教授陣が、学生1人ひとりに手厚く指導を行います。更にメディア映像分野の第一線で活躍する特任教授を迎え、特別講義も開催する予定。学生はより幅広い視野と実践力を育みます。

メディア映像専攻の理念

メディア映像専攻の理念は、多様化するメディアコンテンツに対して既成の枠にとらわれず、自分で工夫しながら新しい表現を生み出す力を育むこと。さまざまなメディア表現に強い関心と探究心、問題を柔軟に解決する思考を持つて新しい表現をめざすことが求められます。そのためカリキュラムでは単に技術を身につけるだけではなく、自主的発想や行動を促す考え方も育成します。森准教授は「ターゲットユーザーや技術環境が目まぐるしく変化し、新しいモノやコトが次々と生まれるメディア映像の世界では、常に情報収集をしつつその変化に柔軟に対応できる力が必要です。新しいものに向き合ったときに怯まず、まずはやってみるという前向きで好奇心旺盛な人が向いていると思います。」と話します。

今後は国内外の国際フェスティバルなどを訪れて、芸術的な視野を広げる機会も予定。「基礎的な造形力を高める努力を重ねながら、他の領域や分野とのコラボレーションやインタラクティブな表現など新しいジャンルを開拓し、愛知県立芸術大学の学生らしい豊かな表現力を磨いてほしいと思います。」と話す森准教授。次世代を動かす新たな人材を創出していきます。





映像スタジオ・副調整室

メディア映像スタジオ棟内に設けられた映像スタジオは広さ約116.5㎡、天井の高さは8mで、大型のセットを組むことも可能。照明やカメラワークの調整を行う副調整室もあり、遮音性能や暗騒音レベルも高く、実際の放送施設のような環境が整えられています。



MA室・録音室

完成した映像にセリフや音をつけて音声編集を行うMA室も新しいメディア映像スタジオ棟1Fに配置。奥には、ナレーションなどを録音できる録音室も完備。遮音性能も高く、ハイクオリティな映像制作が行えます。



メディアスタジオ

メディア映像棟の2Fにあるメディアスタジオは、天井にバーが設けられ、プロジェクターやモーター類などを設置することができるので、複雑かつ多様なセンシングインスタレーションの制作を行うことができます。



CGスタジオ

メディアスタジオ、アニメーションスタジオと隣接するCGスタジオでは、レンダリング処理に特化したPCを含むサーバー室が併設され、本格的なCG制作を行うことができます。VFXなどの特殊な視覚表現や映像スタジオのXRコンテンツ撮影と連動させる作り込みができるので、より完成度の高い表現が可能となっています。



ポストプロ室/カラーグレーディング室

プロダクションされた映像に効果音や音楽の調整を行うほか、ビジュアルエフェクトなど作品の編集や仕上げなどのポストプロダクション作業を行うポストプロ室と、映像にオリジナルな特徴と新たな印象を与える色補正を行い、最終的な作品の質を高める作業ができるカラーグレーディング室という、充実した作業環境が整っています。



コミュニティスペース

学生同士が情報交換や作品についてのディスカッションをしたり、教員とともに作品を見ながら制作について話し合ったりするなど、幅広い用途で自由に使うことができる交流スペースです。簡易なプレゼンテーションの場としても利用することができます。



関口 敦仁
せきぐち あつひと

教授 CG表現・デジタルアーカイブ
東京藝術大学大学院美術研究科修了。美術作家、メディアアーティスト、芸術情報学研究者として、展示や学会などで発表活動。



石井 晴雄
いしい はるお

教授 メディアアート
愛知県立芸術大学大学院美術研究科修了。デザインディレクター、メディアアーティスト。



森 真弓
もり まゆみ

准教授 メディア企画
東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程修了、Ph.D.取得。2007年よりデザイン専攻にてメディア領域を中心に指導を行う。



池田 泰教
いけだ やすのり

准教授 映像表現
映像作家。IAMASメディア表現専攻修了。Docs/Fictionの交錯をテーマに映画作品を制作。メディア芸術のアーカイブ手法研究も行う。



有持 旭
ありもち あきら

准教授 アニメーション表現
美術作家ALIMO。エストニア芸術史家。エストニア芸術アカデミー客員研究員を経て、東京藝術大学大学院映像研究科でPh.D.取得。

デザイン専攻の新カリキュラム

デザイン専攻の再編

愛知県立芸術大学デザイン・工芸科デザイン専攻は、2022年度から4年かけてカリキュラムを再編。新たなカリキュラムには卓越した個を探究する力と、それを社会に届ける力の両方を高め、アントレプレナーシップ（起業家マインド）教育とコラボします。新カリキュラムでの学びや、めざす人材像についてご紹介します。（取材・文 小山芳恵）

社会をリードするデザイン

昨今、デザインを取り巻く社会環境は大きく変化しています。今後各分野の壁はもつと曖昧になり、デザインへの期待は、製品の美しさを担当するスベシヤリストだけでなく、事業のビジョン形成や意思決定に深く関わるようになっていくでしょう。日本には現在、200を超えるデザインの教育機関がありますが、こうした状況を考えると、芸術大学で芸術教育と共にデザインを学ぶ意味はより一層大きくなっています。

本学デザイン専攻は、これまでも専門分野を横断したデザイン教育を行ってきましたが、ただ、専門の壁を取り払うだけでは足りないとの認識から、全面的なカリキュラムの再編を行う決断をしました。

自分と対話する力

芸術大学でデザインを学ぶ最大のアドバンテージは、デザインを芸術教育の一翼と捉えている点にあります。芸術教育はまず学生に卓越した個の探求を要求します。自分を見つめ直し、芸術を支える強い動機や必然性を、自らの内に見出す必要があるからです。不思議なことに起業家を育成する最先端の教育が最も重視している内容と致します。立場や、目先の合理性を超越して、自分の好きなことや夢に向かい自己達成を目指そうとする力には、どうやら普遍性があるようです。

社会と対話する力

芸術家は個を探究する力を作品制作に向けますが、芸術家やデザイナーの自由で柔軟な跳躍力のある発想に対する社会の期待はますます高まるばかりです。もともとデザインは芸術と社会を繋ぐ仲介的な機能を担っていますが、よりダイレクトに、よりダイナミックに社会と芸術が相乗効果を生み出すような方法論が求められています。新しいカリキュラムでは、芸術の内的なプロセスを可能な限り顕在化し共有可能にすることで、社会連携や地域貢献、企業コラボなどの実践的な学修機会を通じて、社会と対話する力を育成できると考えています。

破壊的創造

私たちはデザインを学ぶ両極の一方に芸術を置くことよって得られる破壊的創造に注目します。失敗を恐れず作っては壊しを繰り返す破壊と創造の反復が卓越をもたらすことを芸術家は経験上よく知っています。何気ない日常の中から世紀の大発見が生まれるように、思いがけ無いチャンスオペレーションから新しい価値を導く方法はマジックではないのです。新しいカリキュラムでは破壊的創造のためのトレーニングをストレッチ体操のように反復して習得する方法を開発しました。

LEADING DESIGN

デザインを導く

DISRUPTIVE DESIGN

壊してつくる

固定概念への疑問

IDEATION

解 体
結 合
偶 発
交 換
変 量
不 全
反 転

創造性の増幅
(価値の変換)

MEANINGFUL DESIGN

意味をつくる

美しい表現

MONOZUKURI

道 具
媒 体
造 形
素 材
文 字
物 語
体 験

正しい選択
(価値の創造)

RESONANT DESIGN

社会と共鳴する

自己の拡張

Entrepreneurship

起 業 家 精 神
ピ ッ チ
プレゼンテーション
チ ャーム プレー
マ ネジ メン ト
社 会 連 携
地 域 貢 献

社会と繋がる
(価値の共感)



1. 授業の様子
2. 学生の作品
3. 学生の作品

芸術大学の アントレプレナーシップとは？

アントレプレナーシップは一般的に起業家精神を意味します。あまり聞き慣れない言葉ですが、今のスタートアップブームの中ではよく出るキーワードです。しかし、私たちがアントレプレナーシップ教育に注目する理由は起業家精神の育成ではありません。

アントレプレナーシップ教育の名門と言われるバブソン大学(米国のボストン)をご存知でしょうか。豊田章男社長(豊田自動車)がこの出身者であることは有名です。バブソンの教育には「アート」と言う言葉が再三出てきます。自分は誰なのか、自分は何かしたいのかと、自分自身に深く立ち帰り、自分の欲求の在処を探すリフレクションと言う手法が有名で、バブソンではこのリフレクションをアートとして捉えているというのです。確かに芸術教育においても個と向き合うことは基本要件であり、出来て当たり前、あるのが前提という扱いなので、芸術大学では特にこの部分の教育手法は持っておらず、教員が個別対応の中で消化している程度でした。しかし、バブソン大学の教育との出合いによって、個を探究する教育には芸術家育成だけに止まらない、一般的な価値があると知りました。私たちは、優れた経営者を排出する為ではなく、優れた芸術家やデザイナーを育てる為に、アントレプレナーシップ教育を参考に芸術教育の基本に立ち帰る必要があると考えます。令和4年度より、デザイン専攻の客員教授に、バブソン大学の山川恭弘先生をお迎えし、まずデザイン専攻から芸術大学のアントレプレナーシップ教育への取り組みを開始します。

新カリキュラムの特徴

1年次は、リフレクションとフィードバックで自己を掘り下げつつ、短い時間で多くの気付き、着想を生み出し、多様な視点に転換できる破壊力を加速するトレーニングが主体となります。

2～3年次は特定の専門領域に偏らない、多様な解釈が可能な8つのテーマに取り組みます。ここでもアントレプレナーシップ教育の手法を活かし、モチベーションの高い自分らしい問いを立て、フィニッシュワークまでやり切る学修となります。どの課題を選択しても自分がアプローチに最も近い専門性を有する教員のアドバイスが受けられる体制となります。

4年次の卒業プロジェクトは学部教育の集大成です。テーマ選びから問いの立て方、作品の完成度と物語る力を強化する指導をします。また、プレゼンを重視し、作品と並んでピッチという形で成果を広く公開していきます。

芸術大学発の創造性教育への展開

今年度は新しいカリキュラムの初年度であり、学修体制にも新しい試みを実施します。例えば、本学の学生と同じプログラムを非芸術系他大学の学生に対して実施することや、合同で行うなど、新しいカリキュラムの創造性教育としての価値にどの程度の一般性があるかについてデータを取る予定です。おそらく多くの興味深いフィードバックがあるでしょう。

こうしたデザイン専攻を中心に取り組んだ成果は、いざれファッションアートや音楽等の芸術全般の領域に踏み込んでゆく展開を予定しています。また、非芸術系の他大学や一般企業などへ提供可能な創造性教育の骨格となると思われます。

CLDA 2020を顧みて

第3回 CERAMIC LIFE DESIGN AWARD 2020 がコロナ禍による困難を乗り越え実施され、2021年5月に入賞作品展が本学芸術資料館で無事開催されました。今期で6年を終えたセラミックの可能性を模索する本デザインコンペは、陶磁器関連コンペの中でも、セラミックに特化したデザインを募る稀有な存在であると自負してきました。今回の応募テーマ「出会い」では、プロダクトデザインの提案とともにデザインプロジェクト案も募集しました。現代の充足した日本社会では、モノの卓越した質や美、秀逸な

2021年度音楽学部キャラバン企画

2019年より始まった「音楽学部キャラバン企画」は、各専攻コースから計5〜6名の教員が音楽高校などに出向き、交流と情報交換を行うものです。これまでに、富山、福岡、山形の高校を訪問してきましたが、今年度は大阪府立夕陽丘高等学校と兵庫県立西宮高等学校にお伺いしました。

最初に教員によるコンサート、続いて安原学部長と筆者により学校説明を行い、その後、西宮高校では各教室に分かれ公開レッスンを行いました。この企画がよくある学校紹介と違うのは、教員が出張して実際にコンサートを行うということです。筆者は学校説明を担当し

機能性のみならず、人との新たな関係性の構築がデザインの課題となり、それはセラミック分野でも例外ではありません。新たな課題のもとで実施された本デザインコンペの受賞作品は、いずれも、陶磁に対する慈しみと再生への想いをデザインした力作揃いでした。

第二次審査会は、芸術情報広報課の皆様の尽力でライブ配信が実現し、初の公開審査による白熱した議論の場となり、参加者はこれまでに無い達成感と成果を得ることができました。

長井千春（美術学部デザイン工芸科陶磁専攻教授）

ていますが、「本学にはこんな演奏家の先生がいます」と話すよりは、るかに説得力を持ちます。終了後、多くの生徒が質問に来てくれたり、また、今回は訪問した両校の卒業生が本学に在学中で、高校卒業後の様子についてこちらからもお伝えすることもでき、とても充実した時間となりました。

コロナ禍にあつても、今年もこの企画が行えたことをとても嬉しく思い、また今後も引き続きこの企画が行われること、特に本学への進学が少ない遠隔地域の高校に訪問できることを願っています。

成本理香（音楽学部作曲専攻作曲コース准教授）



授業訪問

陶磁実技Ⅲ（美術学部）／作曲理論ⅢB（音楽学部）

これらは、それぞれ陶磁と作曲の学部3年生が履修する必修科目であり、2021年度後期に6週間にわたって合同で開講された。担当は、陶磁の長井千春先生と、作曲の成本理香先生。

授業は、履修者が各自の自作を紹介するプレゼンテーションから始まり、その後、作曲と陶磁の学生がペアを組み、陶磁の学生は、相手（作曲の学生）の曲のイメージから陶磁作品を制作し、作曲の学生は、相手（陶磁の学生）の作品から得たインスピレーションをもとに曲を作曲した。制作／作曲された作品は、授業でそれぞれプレゼン／鑑賞し、意見を交わす。そして、こうして生まれた作品をもとに、互い次の作品を創るという創造の連鎖が続いていく。作品が発表される授業に2回立ち会った。いつもと違う創作過程を、咀嚼しながら、制作／作曲に対峙する学生の姿が印象的だった。これらの授業の成果は、愛知県立芸術大学芸術資料館にて、「レノンシア」と題された展覧会で発表される（2022年4月19日〜21日）。



特殊研究（管・打楽器領域1）（大学院音楽研究科）

この授業のシラバスに、「本学外国人客員教授、海外音楽講習会でのレッスン、レクチャーに対応出来るように、隔週で英語での授業を行う。特殊奏法について海外の演奏家、作曲家と円滑なコミュニケーションが取れるような、特有の英語能力を養う」とある。実際の授業は、マスタークラス形式で行われている。

この科目は複数の先生が担当しているが、私が参観した授業は、「音楽教育は英語で受けた」というブルックス・信雄・トーン先生（クラリネット）が担当している。

授業では、履修生が演奏し、それに対しトーン先生が英語で指導する。学生はできる限り英語で答えるが、英語で聞かれたことに日本語で答えることもある。トーン先生は、英語でコメントしたあとで、大事な言い回しについて日本語で補足説明もしてくれる。最初は何も聞き取れなかったという履修生も、慣れてくるとリスニングはできるようになり、少なくとも「yes!」くらいは英語で答えるようになっていく。何とも素晴らしい授業でした。

安原雅之（音楽学部長・音楽研究科長）



経済的にも精神的にも自立・自活する「大人」ではない学生たちにとって、時に自身への制限や抑圧と

も加えて展覧会を構成しました。東京藝大の荒木ゼミの学生の作品や身体、家族などをテーマとして、



TEI YOUYOU (十八禁)



伊賀文香(トホホをタハハにもっていく)

なりうる家族の問題や、資本主義の競争原理に取り込まれる身体や性など、アクチュアルなテーマが表現されました。ネガティブに捉えてきた自分の性格や特性、自己史に対峙し、それを許容したりポジティブに転換するユニークな作品もあり、アートだからこそできる可能性を感じました。これからも自身の問題意識と表現を結びつけながら、クリエイティブに活躍してほしいと願っています。



荒木夏実(東京藝術大学美術学部先端芸術表現科准教授)



植井真琴(笑ってほしい)



「遠藤 麻衣:燃ゆる想いに身を焼きながら」会場風景

コンサートでは、本学のイリーナ・チュコフスカヤ客員教授、熊谷恵美子教授、また選ばされたピアノコース学生2名がソリストを務め、教授お二人の熟達した素晴らしい演奏と初々しい学生の感性により、シヨパン音楽が生き生きと再現される一夜となりました。コロナ禍にあっても、上限最大というたくさんのお客様がご来場くださり、惜しみない拍手が送られていたのが大変印象的でした。

武内俊之(音楽学部ピアノコース准教授)



大学オペラ『イドメネオ』

コロナ禍2年目の大学オペラ。ピアノとチェンバロ伴奏による昨年度の公演を経て、今年度の目標は演奏会形式で管弦楽と合唱を入れた公演をすることでした。音楽稽古は始まったものの、夏休み後はデルタという変異株の感染の拡大で12月の公演実施も危ぶまれました。しかしながら、緊急事態宣言が解除された10月以降、あらゆるセクシヨンの動きが加速度を増し、気づけば本格的なオペラ公演となりました。

楽、合唱、舞台監督をはじめとする各舞台スタッフが丸となって取り組んだ公演は大変好評のうちに幕を閉じました。



《皇帝テイトの慈悲》に次ぐセリアの上演でしたが、キャスト、管弦

初鹿野剛(音楽学部声楽専攻准教授)

アートラボあいちでの連携活動

アーティスト・イン・レジデンス2021

2021年度のアーティスト・イン・レジデンスでは、2名のアーティストを招聘しました。美術分野では学外公募により採択された水谷ユウ子氏(コンセプトチュアルアーティスト、4月〜8月)を招聘し、トークイベントや展覧会を開催しました。音楽分野では文屋充徳氏(コントラバス奏者・ヴルツブルグ音楽大学教授、9月〜10月)を

招聘し、「第54回音楽学部定期演奏会 第2夜」、「文屋充徳コンサートバスリサイタル」への出演および公開レッスンを実施しました。滞在制作やコンサート等のプログラムは、多様な文化や芸術に触れる機会となり、教員や学生と交流を深めることで、研究教育の場としての成熟に繋がりました。工藤トモミ(芸術情報広報課)



《歓喜のうた》2021年/インスタレーション/愛知県立芸術大学サテライトギャラリー SA・KURA 文屋充徳氏 コントラバスレッスン



美術学部美術科日本画専攻
清水由朗
しみず よしろう

2021年4月から、美術学部日本画専攻に着任いたしました。専門分野は日本画制作ですが、これまで他大学の教育学部に在籍していたので、主に関わってきたのは美術を専門としない教員志望の学生の皆さんで、毎回の授業実践においては、学生の内的・心的なコミュニケーションを意識してまいりました。本学ではガイダンスの日から、真摯に作品と向き合う学生の姿に接して、思いを新たにいたしました。いうまでもなく、作品は平素の地道で目立たない取り組みが大切

になります。このことにあらためて気付くスタートになったわけです。アトリエを訪問して感じたことは、言語によらないコミュニケーション、意識せずに相互の触発が生まれる素晴らしい環境であることです。作品制作における個人のイメージ生成の連鎖が、各アトリエ内で良い形で発揮できるよう、微力ながら頑張りたいと考えております。これからお世話になります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。



作品名:「しじま」
制作者:清水由朗
制昨年:2021(令和3)年3月
サイズ:1167×803(mm) (P50)
材質:和紙・岩絵の具
出品展:第76回春の院展
場所:日本橋三越本店～巡回



美術学部美術科油画専攻
横山奈美
よこやま なみ

2012年に愛知県立芸術大学大学院を修了してから9年が経ちます。現在は主に絵画と立体作品を制作しております。大学在学中は、緑に囲まれた静かな環境で絵画について考えてきました。伸び伸びと制作に向かえる日もあれば、うまくいかず落ち込む日もあり、自身の制作と格闘する日々でした。この6年間は、今の制作活動に大きな影響を与えています。



LOVE
2018 1818mmx2273mm
Oil on linen
Photo by
Hayato Wakabayashi

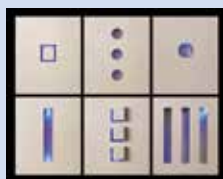
す。そんな思い出深い場所に戻ってくるのができとても嬉しいです。教員としても画家としても未熟ではありますが、大学時代や今までの制作活動で経験したことを活かし、学生が自分自身と向き合い制作していくお手伝いができたらと考えています。どうぞよろしくお願いたします。



美術学部デザイン・工芸科陶磁専攻
崔宰熏
チスン・ゼン

2021年度4月より陶磁専攻教授に着任いたしました。韓国出身で本校に留学をし、大学院で森正洋先生に陶磁器デザインを学びました。修了後はINAX(現在LIXIL)のインハウスデザイナーとして衛生陶器のデザインをはじめアドバンストデザイン、産学協同授業プロジェクト、クリエーターとのコラボレーションによるさまざまな作りと研究など様々な分野で活動してきました。また個人の創作活動、個展など展示活動、国際交流などにも積極的に取り組んでまいり

ました。この間、純粋で好奇心旺盛な学生たちと共にものづくりをしながら彼らの斬新な発想とエネルギーに刺激され、指導する責任感を強く感じています。日本と韓国そして中国で生活しながら皮膚で覚えた多様な経験とネットワークを最大限活かして、暮らしを豊かにするために生活を直視し、デザイン思考を通して創造性を広げ、用の美を審美的に提案できる国際的感覚を持つ人材を育成することができれば幸いです。



The Light -Earth & Light
in Harmony-

message

退任教員紹介

井上さつき

井上さつき

音楽学部音楽科作曲専攻
音楽学コース



東京藝術大学で助手を3年間つとめたのち、着任したのが一九八九年でしたから、33年間、本学で教員をしていました。その間に音楽学コースが新設されて専門の学生を育てるようになり、さらに博士後期課程が設置され、やり甲斐のある教員生活を送ることができました。

着任してからしばらくして、管理棟に貼られていた「愛知県に万博を！」という誘致ポスターを見て着想を得て、バリ万博と音楽について研究を始め、そのテーマで博士号を取得しました。二〇〇五年の愛知万博の前後で大学の周りの景観は文字通り一変しましたが、豊かな自然の中で、こじんまりした規模の公立の専門大学ならではの居心地の良い環境で過ごせたことは幸せでした。先生方、職員の方々、卒業生、在学生の方たちに心から感謝いたします。



『音楽と越境—8つの視点が拓く音楽研究の地平』
(監修・共著、森本頼子編、音楽之友社、2022)
本人と教え子たちの論考を収めた退任教員の論文集



金子智太郎

金子智太郎

美術学部美術科芸術学専攻

中先生の後任として芸術学専攻で美術学を担当します。私は音や聴覚をめぐる文化の美学的研究を専門として、近年は戦後日本における美術と音の関わりやオーディオ趣味などについて調査してきました。

と研究に力を尽くしたいと思います。研究の成果は文章だけでなく、イベントや展覧会、ワークショップなど、さまざまな形で社会に還元していきたいと考えています。

「音楽の神様がもしこの世にいるなら、僕は神への冒険ばかり行ってきました」僕が初めて参加した教授会での第1声です。僕はテクノロジを軸にした音楽の創作活動を行ってきました。近年の取り組みは自動演奏音楽の創作と研究です。この活動から僕の代表作である『ゾンビ音楽』が生まれました。おそらく音楽の神様は『ゾンビ音楽』を聴いたら顔をしかめると思っています。

ジオを通して従来の音楽の枠組みを問い直すことを行っています。片手では正しいドレミの聴き方歌い方を教え、もう片方の手ではそれを破壊する。僕はそんな両面性の中で生きています。思えば日本とブラジルのハーフであるという僕の出自も自身の抱える両面性の一つです。

現代はとても複雑な時代です。世界の抱える多面性を我々がどう引き受けてどのように表現するのか。芸術大学が問われている大きな課題をこれから僕も一緒に考え、そして表現したいと思っています。

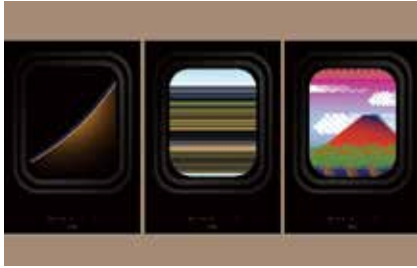


安野太郎

安野太郎

音楽学部音楽科作曲専攻作曲コース

JAGDA国際学生 ポスターアワード2021 銅賞 受賞



大学院デザイン研究科 博士課程前期2年
島吉 信之介 しまよし・しんのすけ

自身のアイデアとグラフィックがどこまで通用するのか確かめるために挑戦しました。3枚のポスターは未来のモビリティから望めるかもしれない車窓風景である宇宙・速度・デジタルの景色を表現しています。受賞時は、昨年に続き2年連続の入賞となったため大変驚きました。これらの経験を今後の糧とし、制作に繋がりたいです。

受賞作品 20XX年の車窓

+ミライブプロジェクト 1次審査 中部北陸エリア最優秀賞 2次審査 三菱地所設計賞 受賞



大学院デザイン研究科 博士課程前期1年
伊藤 謙 いとう・けん

私は「時間経過と建築」の関係を研究していて、その延長としてこの制作を行いました。時間をかけて蓄積してきた「古い文化や景観」を、現代都市の多様性と捉えることで「意義」を見出し、都市の動向を批評する提案です。審査では、現役の建築家の方々に講評していただく事ができ、大変貴重な体験をさせていただきました。

受賞作品 浮きドヤ～表裏解体期における裏側文化の未来に向けた再構築～

愛知県学生対抗ハッカソン 優秀賞 受賞



美術学部デザイン研究科 2・3年
伊藤 萌香 大西 真央 清武 美桜
手塚 彩音 松本 晴子

いとう・もえか おおにし・まお きよたけ・みお
てづか・あやね まつもと・はるか

ゴミ収集車に自動運転の技術を掛け合わせ、時間に縛られないゴミ捨てや資源回収を可能にするサービスを考案しました。1週間という限られた期間の中で、アイデア出しから「人に共感してもらえる提案」にまで形にするのは大変でしたが、芸大ならではの強みを生かしたアウトプットが評価されたことは嬉しく、自信につながりました。

受賞作品 ぐらしにフィット! お迎えごみステーション「ヨビステ」

Tongaliアイデアピッチ コンテスト2021 野村證券賞 受賞



大学院デザイン研究科 博士課程前期1年
大沼 真奈美 おおぬま・まなみ

現在開発中の食品がビジネスアイデアとしてどのような評価を頂けるのか興味があり、本コンテストに参加いたしました。自分のアイデアを伝えるために必要な情報や言葉選びとは何かを考え、短い制限時間内にまとめることに苦労しました。予選・本選共に他大学チームの様々なピッチを聞くことができ、非常に勉強になりました。

受賞テーマ 現代に蘇る兵糧丸・愛知県産豆味噌の食品開発

とよたデカスプロジェクト2021 入選プロジェクト



大学院デザイン研究科 博士課程前期1年
伊藤 なごみ いとう・なごみ

2018年から続けてきた「髪の木」という参加者の髪の毛を木に見立て、自然を体感してもらうアートイベントです。イベントは全日満員で、当初10人だけの作品でしたが、80人の髪の木からなるアート作品になりました。次回は、各務原でのイベントを開催予定です。人との繋がりが次の成功に繋がっていくことを体感しました。

入選作品 髪の木

アートと遊びと子どもをつなぐ メディアプログラム汗かく メディア2021 汗かくメディア賞 受賞



大学院デザイン研究科 博士課程前期1年
塩谷 佑典 えんや・ゆうすけ

本企画に応募したのは自身が制作した「遊び」がどの程度通用するのかを実際に試したかったからです。この作品はひらがなの読みにくい特性を活かしたカルタに似た遊びで、年齢差に関係なく遊べます。小さなお子さんに対するルール説明など、都度工夫をしながら約300人に遊んでもらい、自身にとっても新たな学びに繋がりました。

受賞作品 うらにわには2わうらには2わにわとりがいる: 4D

「地道に誠実に」

大学院音楽研究科(博士前期課程)音楽専攻 声楽領域 2011年度修了

船越 亜弥 ふなこし・あや



愛知県立芸術大学卒業。同大学院修了。広島市新人演奏会出演、広島交響楽団と共演。第18回大阪国際コンクールAge-Gオペラコース2位(1位なし)。第90回日本音楽コンクール声楽部門第1位。オペラでは、ひろしまオペラルネッサンス主催『イル・カンピエッロ』オルソラ、びわ湖ホール主催、『デイドとエネアス』デイド、『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・エルヴィーラ、『こもり』ロザリンド、『魔笛』パミーナなどを演じる。愛知祝祭管弦楽団主催公演にも多数出演。また、宗教曲等のソリストも多く務める。声楽を中川聡子、神田詩朗、永田直美、戸山俊樹の各氏に師事。びわ湖ホール声楽アンサンブルソロ登録メンバー。

昔から「将来は手に職だ」と言われ、母の勧めもあり、ほんやりといつか看護師にでもなるのかな、と思っていました。

中高の青春はすべて吹奏楽部に費やしました。そして高校3年生の受験勉強の追い込みの時期に、急に「音大に行きたい。」と言い出したことで、両親は大慌てでした。特に母には多くの迷惑をかけましたが、色々奔走してくれました。楽器では到底無理な話だった為、声楽専攻を受験することになりました。98%浪人と覚悟していたにもかかわらず、気が付いたら母の母校である愛知県立芸術大学に現役で入学していました。そのため、知識はほぼないまま入学し、在学中は兎に角ついていくことで精一杯でした。

学部3年生の時から戸山俊樹先生に師事するようになり、学部4年生になるころ「院はどうするの

か。」と聞かれて驚きました。そこから初めて大学院を志すようになりました。無事に大学院に入学してすぐの大学院オペラ『カルメン』では、タイトルロールに抜擢され、訳も分からないまま授業がはじまり、「私にはタイトルロールは重荷すぎる。」と、苦しい日々を送りました。しかし、そこでの経験は今の歌手活動の原風景にもなっています。

そして、他の大学に行っていたら出会えなかった美術にも触れることができ、刺激を受けたこと、美術を専門とする友人を得られたことも、芸術のアンテナを増やす一つの要因になっているのではないかと思います。

大学院修了後しばらくして、滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール声楽アンサンブルのオーディションを受け、ソプラノとして所属することになりました。学生時代から大

学院修了後の数年間は、メゾ・ソプラノとして勉強をしており、びわ湖ホール入団時のソプラノとしてのキャリアは、わずか数か月でした。持ち曲もない、技術も舞台も経験不足、合唱は大学の授業で教わっただけ。そのような状態で年間1から2本だった本番数が一気に年60本に増え、そこから目まぐるしい毎日を送ることになりました。

びわ湖ホールではオペラはもちろん、合唱や学校巡回公演など多岐に渡る公演があり、毎日譜読み譜読みの嵐だったこと。そして、国内外でご活躍されている方々の近くで勉強ができたことで、本番に対しての対応力や技術的な面も培われたと思います。

また、合唱のアルトパートや、メゾの役をオペラで歌うこともありました。自分でもどちらかが向いているのかわからなくなる時がありました

が、他の人にはない個性として受け入れ、音楽の幅を広げていったのではないかと、思っています。

アンサンブルを満期退団してからは、本番の数も落ち着き、ようやく心と時間に余裕が出てきたため、日本音楽コンクールに挑戦してみようと思いました。どちらかというコンクールやコンテストといったことは苦手でしたが、応援してくれる方々も周りにいてくださったことから自分を奮い立たせて挑戦したところ、第1位という成績を納めることができました。

これまでの活動を振り返ってみると、大学入学からコンクール1位までずっと苦悩と驚きの連続です。結果を出せたのは、私の意志だけではなく、必ず人生の分岐点に導いてくださる方と出会えた幸運によるもの、また先生の教え通り誠実に取り組み、コツコツ努力をしてきたからだと思っています。



1 びわ湖ホールオペラへの招待「魔笛」パミーナ
2 びわ湖ホールオペラへの招待「こもり」
3 音楽祭かがり火オペラ「デイドとエネアス」
4 学校巡回公演
写真提供: びわ湖ホール



在学生・卒業生・修了生の昨年の主なニュース

期間：令和3年1月から令和3年12月まで

※卒業・修了年は年度で記載しています。学年は令和3年12月末日時点です。

美術学部/美術研究科

専攻	氏名	学年・卒年	展覧会・コンクール名等	受賞名	
日本画	加藤 厚	1983 修了	再興第106回院展	日本美術院賞(大観賞)、 東京都知事賞	
	牧野 環	2000 修了	再興第106回院展	奨励賞	
	平林 貴宏	2005 修了	再興第106回院展	奨励賞	
	平林 貴宏	2005 修了	第76回春の院展	外務大臣賞、奨励賞	
	坂根 輝美	2005 修了	再興第106回院展	奨励賞	
	河本 真里	2015 修了	再興第106回院展	奨励賞	
	王 冠賢	博前 2年	第76回春の院展	入選	
	王 冠賢	博前 2年	第79回一宮市美術展	市長賞	
	水谷 真里佐	博前 2年	第76回春の院展	入選	
	宮田 佳子	博前 1年	再興第106回院展	入選	
	宮田 佳子	博前 1年	公益財団法人佐藤国際文化育英財団	令和3年度第31期奨学生	
	奥川 夏紀	学部 4年	再興第106回院展	入選	
	升野 琴絵	学部 3年	第3回さぶ美術展 日本画の部	優秀賞	
	油画・版画	奥村 紗江	博前 2年	第8回山本鼎版画大賞展	入選
		小松 夏海	博前 2年	第8回山本鼎版画大賞展	入選
下村 菜由		博前 2年	第8回山本鼎版画大賞展	入選	
鳥越 愛良		博前 1年	第8回山本鼎版画大賞展	入選	
水谷 彩乃		博前 1年	第8回山本鼎版画大賞展	入選	
古池 麻衣		学部 4年	株式会社バンダイナムコスタジオ インタナーシップ ビジュアルアーティスト編 「課題にチャレンジ! ゲームのビジュアルデザインを学ぶ Level up講座」	UI部門 最優秀賞	
彫刻		野木 海生	学部 4年	第8回山本鼎版画大賞展	入選
		新山 珠羽	学部 2年	いい芽ふくら芽2020入選作家作品展	入選
		新山 珠羽	学部 2年	ABTアートコンテスト	立体・クリエイティブ部門賞
		新山 珠羽	学部 2年	いい芽ふくら芽 in Tokyo 2021	入選
		新山 珠羽	学部 2年	いい芽ふくら芽2021 in Nagoya	グランプリ
デザイン		成田 帆花	学部 2年	第59回豊田市民美術展	デザイン部門 優秀賞
		北園 大和	博前 1年	日本タイポグラフィ年鑑2021	学生部門 入選
		北園 大和	博前 1年	第13回世界ポスター・トリエンナーレトヤマ2021	A部門 入選
		大西 真央	学部 2年	日本タイポグラフィ年鑑2022	入選
	宮部 友宏	1993 卒業	第12回国際陶磁器展美濃	銀賞(7カ所分野) 中小企業庁長官賞	
陶磁	小形 こず恵	1999 修了	第52回東海伝統工芸展	静岡県教育委員会教育長賞	
	青木 岳文	2014 卒業	第12回国際陶磁器展美濃	坂崎重雄村山賞(デザイン) 入選(スタジオ分野)	
	明石 朋美	2014 修了	笠間陶芸大賞展2021	一部 公募部門 審査員特別賞	
	明石 朋美	2014 修了	第52回東海伝統工芸展	日本工芸会賞	
	宮下 陽	博後 3年	第8回陶美展	シンリウ賞	
	前澤 朋佳	博前 1年	第55回女流陶芸公募展	女流陶芸新人賞	
	竹田 なるみ	博前 1年	第116回 C B C 翔け!二十歳の記憶展	準グランプリ	

専攻	氏名	学年・卒年	展覧会・コンクール名等	受賞名
声楽	田中 潤	博前 2年	全日本学生音楽コンクール 名古屋大会 本選	声楽部門 大学生の部 第1位
	田中 潤	博前 2年	第75回全日本学生音楽コンクール	大学生の部 全国大会 入選
	東原 由貴	博前 1年	全日本学生音楽コンクール 名古屋大会 本選	声楽部門 大学の部 第2位
	東原 由貴	博前 1年	第一回国際声楽コンクール東京	グランプリ部門 全国入選
	東原 由貴	博前 1年	第75回全日本学生音楽コンクール	大学生の部 全国大会 入選
	東原 由貴	博前 1年	第23回日本演奏家コンクール	声楽部門一般Aの部 奨励賞
	土井 里佳子	博前 1年	第32回名古屋演奏家育成塾コンサート	奨励賞
	中村 清美	博前 1年	第75回全日本学生音楽コンクール	大学生の部 名古屋大会 入選
	柴田 千沙都	博前 1年	第一回国際声楽コンクール東京	新進声楽家部門 全国入選
	日下 萌香	学部 4年	第74回全日本学生音楽コンクール	大学生の部 全国大会 入選
	藤森 まり	学部 4年	第29回ブルクハルト国際音楽コンクール	声楽部門 審査員賞
	駒田 敦嗣	学部 3年	第40回全日本ジュニアクラシック音楽コンクール	声楽部門 大学生の部 奨励賞
	白金 宙河	学部 3年	第一回国際声楽コンクール東京	大学生部門 全国入選
	瀬戸口 祐也	学部 2年	第一回バーゼル国際声楽コンクール	大学生・院生の部 奨励賞、 Encouragement Prize Supraleitung Methode賞

鍵盤楽器	氏名	学年・卒年	展覧会・コンクール名等	受賞名	
鍵盤楽器	鈴木 美穂	博後 3年	VI Odin International Music Online Competition 2021	ピアノ部門 第2位	
	鈴木 美穂	博後 3年	第2回スワトスラフ・リヒテル国際ピアノコンクール【AAFアーリンク=アルグリッチ財団加盟コンクール】	ソロ部門 第1位	
	小野 杏奈	博前 2年	第40回飯塚新人音楽コンクール	ピアノ部門 第1位	
	眞鍋 杏梨	博前 2年	VI Paderewski International Piano Competition Special Online Edition 2021	"Piano Masters"部門 第3位	
	河内 みく	博前 2年	第23回日本演奏家コンクール	一般Aの部 第3位	
	河内 みく	博前 2年	第11回クオリア音楽コンクール	コンサート部門 第2位	
	河内 みく	博前 2年	第3回ラフマニョフ国際ピアノコンクール JAPAN	G部門 第5位	
	高岡 春香	博前 1年	2021年 音の夢ピアノコンクール	自由曲コース フリー部門 グランプリ、1位	
	ピアノ	吉田 茜	2015 卒業	第24回アルトゥール・シュナーベルコンクール	第3位
		中條 響	学部 4年	第23回"万里の長城杯"国際音楽コンクール	ピアノ部門 大学の部 第1位、 理事長賞
		中條 響	学部 4年	第15回セシリア国際音楽コンクール	大学生の部 第5位
		中條 響	学部 4年	第11回岐阜国際音楽祭コンクール	ピアノ部門 大学生の部 2位
		中條 響	学部 4年	MUSIC & STARS AWARDS	PIANO EMERGENT部門 GOLD STAR
		宮脇 彩永	学部 4年	第15回セシリア国際音楽コンクール	リサイタル部門 第3位
		渡辺 千尋	学部 4年	第41回全日本ジュニアクラシック音楽コンクール	ピアノ部門 第2位
山田 明日香		学部 4年	第41回全日本ジュニアクラシック音楽コンクール	ピアノ部門 第1位	
水野 あかり		学部 4年	第27回 フッセル鳥橋ピアノコンクール2021	フッセル部門 入選	
稲垣 みなみ		学部 4年	第27回 フッセル鳥橋ピアノコンクール2021	フッセル部門 入選	
吉岡 瑞貴		学部 3年	第21回大阪国際音楽コンクール	ピアノ部門 Age-U 入選	
吉岡 瑞貴		学部 3年	第7回東京国際ピアノコンクール	大学生部門 審査員賞	
吉岡 瑞貴		学部 3年	第27回国際ピアノコンクールin知多	F部門 金賞	
井上 のり		学部 3年	第23回日本演奏家コンクール	ピアノ部門 大学生の部 第1位、 愛知県知事賞	

弦楽器	氏名	学年・卒年	展覧会・コンクール名等	受賞名
弦楽器	桑野 友里	学部 3年	第66回県下ピアノ/独奏コンクール	大学生・一般の部 第2位 市議会議長賞
	開坂 望生	学部 3年	第2回ひのっ子ピアノコンクール+(広島) 本選	第2位
	柳 伊吹	学部 2年	第7回東京国際ピアノコンクール	大学生部門 入選
	村山 侑紀美	学部 2年	第7回なごや青少年ピアノコンクール	大学生(自由曲)部門 第2位
	河内 花菜	学部 2年	第26回みえ音楽コンクール	ピアノ部門本選 大学生以上 一般の部 第2位
	山田 百桃	学部 1年	第7回刈谷国際音楽コンクール	ピアノ部門 一般の部 優秀賞
	光行 いちご	学部 1年	第3回あいの土山ピアノコンクール	大学生・一般部門 第1位
	高田 知子	2012 修了	第95回LEOPOLD BELLAN国際音楽コンクール	グランジュニー特別賞
	高田 知子	2012 修了	第31回日本クラシック音楽コンクール	ハーブ部門 一般の部 第2位
	高田 知子	2012 修了	MAP国際音楽コンクール	グランプリ
	岡本 紗季	2019 修了	第22回大阪国際音楽コンクール	アンサンブル部門 第3位
	新井 千晶	博前 2年	第22回大阪国際音楽コンクール	アンサンブル部門 第3位
	岡田 直人	博前 1年	第22回大阪国際音楽コンクール	アンサンブル部門 第3位
	亀滝 和音	博前 1年	第22回大阪国際音楽コンクール	アンサンブル部門 第3位
	梅村 直弥	学部 4年	第79回東京国際芸術協会新人演奏会オーディション	奨励賞

管打楽器	氏名	学年・卒年	展覧会・コンクール名等	受賞名
管打楽器	重森 捺音	学部 4年	第11回岐阜国際音楽祭コンクール	弦楽器部門 大学生の部 1位
	安田 果穂	学部 3年	第75回全日本学生音楽コンクール大阪大会	チェロ部門 大学の部 第2位
	中村 明里	学部 2年	SAKURA JAPAN MUSIC COMPETITION 2021	コントラバス部門 Category C 第4位
	窪田 翔椰	学部 2年	第5回K弦楽器コンクール	動機審査部門 第3位
	朽名 彩音	学部 1年	SAKURA JAPAN MUSIC COMPETITION 2021	コントラバス部門 Category C 第3位
	朽名 彩音	学部 1年	第3回日本奏楽コンクール	弦楽器部門 大学の部 第3位
	大瀧 凜里亜	2013 卒業	第10回日本クラリネットコンクール	入選
	星野 朱音	2015 卒業	日本音楽コンクール	トランペット部門 第3位
	浦畑 尚吾	2017 卒業	日本音楽コンクール	クラリネット部門 入選 岩谷賞
	堀江 祥広	2018 卒業	山田貞夫音楽財団 第3回指揮者オーディション	山田貞夫音楽賞
	青山 夏大	2019 卒業	2021 Leonald Falcone Virtual International Euphonium & Tuba Competition	ユーフォニアムアーティスト部門 GOLD MEDAL(第1位)
	久保 健斗	学部 4年	2021新進演奏家育成プロジェクト オーケストラ・シリーズ広島 オーディション	合格
	高橋 喜仁	学部 3年	第5回名古屋トロンボーンコンペティション	一般ソロ部門 第1位
	狩野 将輝	学部 3年	第4回GPSスネアドラムコンテスト	音大生部門 金賞、グランプリ

管打楽器	氏名	学年・卒年	展覧会・コンクール名等	受賞名
管打楽器	松尾 悠生	学部 3年	2021新進演奏家育成プロジェクト オーケストラ・シリーズ福岡 オーディション	合格
	安嶋 美裕	学部 3年	第20回北陸新人登壇門コンサート (弦管打楽器部門)オーディション	優秀者
	畠山 弘人	学部 2年	第23回万里の長城杯国際音楽コンクール	管楽器部門 大学の部 第4位
	大橋 音子	学部 2年	第33回名古屋演奏家育成塾コンサート	名古屋市民文化振興事業団賞、 奨励賞
	難波 倫広	学部 1年	第22回岡山芸術文化賞	ジュニア奨励賞
	野々 笑莉	学部 1年	第22回大阪国際音楽コンクール	管楽器部門 Age-U エスウォール賞

音楽学部/音楽研究科

専攻	氏名	学年・卒年	展覧会・コンクール名等	受賞名	
作曲	芳賀 傑	2014 卒業	2021 INTERNATIONAL COMPOSITION CONTEST	第1位	
	芳賀 傑	2014 卒業	第30回日本管打・吹奏楽アカデミー賞	作・編曲部門	
	岡田 智則	2018 修了	Festival Futura 2021	入選	
	吉田 翠葉	2018 修了	第1回伊勢志摩国際作曲コンクール	特別賞	
	向井 由衣子	博前 2年	ULJUS VIII International Piano Competition Smederevo (Composition Category IV)	Prize II	
	古木 彩音	博前 1年	第26回国際芸術連携作曲コンクール	第5位	
	声楽	船越 亜弥	2011 修了	第90回日本音楽コンクール	声楽部門本選会 第1位
		宇多村 仁美	2012 修了	第4回マルグリット・グリエルミ声楽コンクール	一般歌手部門 第3位
		山際 きみ佳	2014 修了	第40回飯塚新人音楽コンクール	声楽部門 第2位
		山際 きみ佳	2014 修了	ヴィンチェンツォ・ペッリーニ国際声楽コンクール	入賞
		井口 侑美	2016 修了	第38回ソレイユ声楽コンクール	第2位、優秀賞
		川越 未晴	2018 修了	第23回日本演奏家コンクール	声楽部門一般Aの部 第2位
		永尾 漢一郎	2018 修了	新国立劇場オペラ研修所 入所試験合格	
		世島 みづは	2019 修了	第23回日本演奏家コンクール	声楽部門一般Aの部 特別賞
		芳賀 あずさ	2019 修了	第23回日本演奏家コンクール	声楽部門一般Aの部 第3位
芳賀 あずさ		2019 修了	第一回国際声楽コンクール東京	新進声楽家部門 全国入選	
溝口 方利		2020 修了	第74回全日本学生音楽コンクール	大学生の部 全国大会 第3位	
長富 将士		2020 修了	新国立劇場オペラ研修所 入所試験合格		
鈴木 一世		2020 修了	第79回東京国際芸術協会新人演奏会オーディション	声楽部門 奨励賞	
成田 朋加		2020 修了	第30回ブルクハルト国際音楽コンクール	声楽部門 審査員賞	



愛芸アシスト基金

皆様のあたたかいご寄付をお待ちしております。詳細は右記QRコードより本学WEBサイトをご覧ください。

